

情報端末フェスティバル 2010

- 主催：情報端末事業委員会
- 担当部署：インダストリ・システム部
- 参加者数：約800名

概要

情報端末事業委員会では、ユビキタス情報社会での情報端末がいかにあるべきかを研究し、我が国の情報端末の新しい分野への発展・普及とこれからの需要喚起を図っていくため、コンピュータのキーコンポーネント（ディスプレイ、磁気ディスク装置）、コンピュータの機能を拡張する装置（プリンター、イメージスキャナ）、業務用装置（金融端末、流通POS端末、ハンディーターミナル、OCR、KIOSK端末）を情報端末と位置づけ、各製品ごとに専門委員会やワーキンググループを設け、

技術動向・市場動向・各種標準の作成等の調査研究活動を行っており、研究内容の発表の場として毎年情報端末フェスティバルを開催しています。

本フェスティバルは、今年で14回目を迎え、各製品別専門委員会が実施した統計、需要見通し調査、技術動向を中心とした調査成果報告を11のセッションで紹介したほか、下記の7つの特別セッションにて、IT分野を牽引する事業、最新のトレンドについて情報発信、普及啓発活動を行いました。

プログラム

○「経済産業省のIT・エレクトロニクス産業政策」

経済産業省 商務情報政策局 情報通信機器課 課長補佐 中沢 潔 氏

○「我が国エレクトロニクス産業が置かれた21世紀の経営環境 —アジアの成長と共に歩むビジネスモデル構築の為に—」

東京大学 小川 紘一 氏

○「人の目を引くデジタルサイネージの工夫紹介」

日経BP社 日経ニューメディア 記者 松浦龍夫 氏

○「iVDRが創造する新しいビジネス展開」

iVDRコンソーシアム 会長 釘屋文雄 氏

○「世界の電子機器成長と日系メーカーの動向」

アイサプライザン(株) 副社長 南川 明氏

○「AR（拡張現実）端末としてのiPhone/Androidの可能性」

日経BP社 日経ソフトウェア編集部 武部健一 氏

○「iPhone、iPadが生み出すデジタルライフスタイル ～ Twitter、電子書籍を含む最新動向を紹介～」

ITジャーナリスト 林 信行 氏

